第 64 回　日本卵子学会学術集会
P-031
茨城, 2023.5.20-21

第一、第二正常卵割が妊娠・生産に与える影響について

[1]阪本なつき、[1]中野達也、[1]佐藤学、[1]中岡義晴、[2]森本義晴
[1]医療法人三慧会　IVF なんばクリニック
[2]医療法人三慧会　HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】タイムラプス観察により第一、第二卵割で異常卵割した胚の胚盤胞到達率は正常卵割した胚に比べて低い報告がある一方で、異常卵割胚でも胚盤胞に到達すれば、妊娠率に影響しないことも報告されている。異常卵割は 3 細胞以上に分割しているため、染色体の不分離による生産率の低下が懸念される。そこで、正常卵割胚と異常卵割胚で妊娠率、生産率への影響を比較検討した。
【方法】2020 年 1 月から 12 月に採卵し、2020 年 1 月から 2021 年 12 月で凍結融解単一胚盤胞移植をした 543 症例を対象に検討を行った。（検討 1）第一、第二卵割ともに正常卵割した胚（正常卵割群）と異常卵割をした胚（異常卵割群）の 2 群に分け両群での妊娠率、生産率を比較後、ガードナー分類における TE 評価別に妊娠率、生産率を比較検討した。（検討 2）妊娠結果、生産結果を従属変数とし、年齢、胚齢、正常卵割の有無、収縮の有無、ICM の評価、TE の評価、胚盤胞腔の拡張具合を独立変数としたロジスティック回帰分析を行い検討した。
【結果】（検討 1）正常卵割群と異常卵割群で妊娠率に有意差を認めた(54.8% vs 42.4%($p<0.01$))が、生産率(39.9% vs 30.9%)には差は認められなかった。しかし、正常卵割群と比較して異常卵割群では TE：C が多かった($p>0.01$)。そこで、TE 評価別に妊娠率、生産率を比較し、TE の評価が同じ場合には両群間で差はなかった。（検討 2）TE 評価のオッズ比は 3.35(95%CI:1.77,6.32)となり TE：A であることが妊娠結果に正の相関があり、年齢のオッズ比は 0.93(95%CI:0.93,0.89)で年齢が妊娠、生産結果に負の相関があった。それ以外の項目について相関は認められなかった。
【結論】正常卵割群は胚盤胞に到達しやすく、TE 評価の高いものが多く、全体でみれば妊娠率は差を認めたが、TE の評価別に妊娠率に差は認められなかった。またその後の生産率の低下も認められず、正常、異常卵割どちらでも胚盤胞に到達すれば、ガードナー分類での評価が有効であることが示唆された。